

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2018 Round.7 AUTOPOLIS



ST600
#71 Daiki Uehara

JP250
#71 Kiyoshi Akama

HONDA

HRC

BRIDGESTONE

MUSASHI

Arai
HELMET

TAJIMA
TAMAMOTO

NGK
SPARK PLUGS

eif

TGK

ACTIVE
Rev and Ride It!

RK
TAKASAGO CHAIN

SUNSTAR

KRS

SIGNET

■ Mistresa RT HARC-PRO. Media Information

2018 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦

MFJ スーパーバイクレース in 九州 KYUSHU MOTORCYCLE FESTA 2018

大分県・オートポリス (1周=4.674km)

観客動員数：5,550人 (2日間合計)



ST600 クラス
#71 上原 大輝

マシン：Honda CBR600RR タイヤ：BRIDGESTONE

予選：9番手 (タイム：2分02秒586)

決勝：9位

71 project

Showa Denki Group

昭和電機では全日本ロードレースをより一層盛り上げるべくチームやメーカー、クラスを越えて各クラスのゼッケンナンバーが「71」のライダーとチームを応援する71プロジェクトを発足いたしました。

71プロジェクトでは、応援ツアーの開催や公式プログラムへの広報記載、応援グッズの配布、ピットウォーク時のスタンプラリーなど、様々な企画を計画しております。各クラスで#71を付けたチーム・ライダーのご声援をよろしくお願いたします！

<http://mistresa-71.com>



JSB1000
Team KAGAYAMA
#71 加賀山 就臣 選手

J-GP2
TONE RT SYNCEDGE4413
#71 三原 壮紫 選手

J-GP3
Team P.MU 7C MIKUNI
#71 小室 旭 選手

ST600
Mistresa RT HARC-PRO.
#71 上原 大輝 選手

JP250
Mistresa RT HARC-PRO.
#71 赤間 清 選手

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2018 Round.7 AUTOPOLIS

ST600 #71 Daiki Uehara



Mistrés RT

HARC-PRO

ST600 ライダーとして成長してきた上原

全日本ロードレース選手権は、シリーズ第7戦を大分県・オートポリスで迎えた。今回は、MFJ CUP JP250 の開催はなく Mistrés RT HARC-PRO. からは、ST600 クラスに上原大輝がエントリーした。



ST600 クラスは、シリーズ後半戦のスタートとなるラウンドとなるだけに、ここで勢いをつけて最終戦まで突っ走りたいところ。



前戦の筑波ラウンドで自身の技量のなさを痛感した上原は、このインターバルで600ccのマシンを操るためには、何が足りないのかを考え、トレーニングに励んだ。

前週に行われた事前テストは、不安定な天候と2日目は、施設の停電があり、満足に走ることができなかった。レースウィークに入っても山間部にあるサーキットだけに、午前中は雲が降りて来やすく、すぐに視界不良となっていました。条件は、他のライダーも一緒だが、ST600 ルーキーの上原にとっては、少しでも多く走り、経験値を上げていきたいところだった。初日となった金曜日は、ウエットコンディションとなり、1本目の走行では、6番手と上々のポジションにつけていた。2本目もウエットとなり、タイムを縮めて行き 12番手と、まずまずの結果となっていた。開幕戦のツインリンクもてぎでも、そうだったが、ウエットでは、フィーリングがよく、自信を持って攻めることができていたと言う。



ST600 #71 Daiki Uehara

今回、ST600 クラスは、土曜日にレース1、日曜日にレース2を行う予定となっていたが、土曜日は、朝から雲が降りてきてしまい視界不良で走行ができなかった。雲が晴れたかと思えば、強い雨が降ってきてしまい、午前中の走行はキャンセルされ、レース1は中止という判断がくだる。そして午後に公式予選が行われることになる。

ピットウォーク中は、雨も止み晴れ間も見えていたが路面はウエット。上原は、自信のあるウエットコンディションで、まずタイムアタックを行い上位につけていた。セッションが進むにつれ、路面は乾いて行くが、思いのほか乾きは遅かった。結局4周目にマークしたタイムがベストとなり9番手グリッドを確保。3列目からスタートすることになっていた。



日曜日は、朝から快晴となりドライコンディションで各クラスのレースが行われた。この日、最後のレースとして行われたST600クラス。15周先のゴールを目指し39台のマシンが一齐に1コーナーを目指す。上原は、やや出遅れオープニングラップは、11番手でホームストレートに戻って来る。序盤は、うまくペースを上げることができず2周目には、14番手までポジションを落としてしまう。しかし、この日の上原は、ここから粘り強く1台、また1台と前を行くライダーとバトルをしながらポジションを上げて行く。レースも終盤となる10周目には、ポールポジションや表彰台に上がった経験もある奥田選手をかわし9番手に浮上。そのまま9位でゴールし、シングルフィニッシュと後半戦最初のレースで幸先のよいスタートを切った。



ST600 #71 Daiki Uehara

■上原大輝コメント

「シリーズ前半戦の反省を徹底的に行い、今、自分自身に何が足りないかを常に考えていました。飛鳥井メカニックに相談しながら、マシンセットを進めましたが、今回は、絶対的に走る機会が少なかったので大きくマシンはいじらず、エンジンブレーキとインジェクションセッティングを中心に、少しでも多く走ることを心掛けました。特にウエットコンディションでは感触がよかったです。ドライコンディションでも、もっと上位に行けるように努力して行きたいと思っています。今回も昭和電機の応援団を始め、ご声援いただいた皆さんに感謝いたします。ありがとうございました」



このリリースのお問い合わせは
昭和電機株式会社 営業推進部 sales@showadenki.co.jp